

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4490600014
法人名	医療法人 末広
事業所名	グループホーム無量寿
訪問調査日	平成20年 8月29日
評価確定日	平成20年12月 2日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4490600014
法人名	医療法人 末広
事業所名	グループホーム 無量寿
所在地	臼杵市大字末広915番地 (電話)0972-64-7338

評価機関名	福祉サービス評価センターおおい		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成20年8月29日	評価確定日	平成20年12月2日

## 【情報提供票より】(平成20年8月9日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成18年 8月 9日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤	13人, 非常勤 0人, 常勤換算 13人

### (2) 建物概要

建物構造	純和風木造瓦葺平屋造り 1階建ての1階部分
------	--------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷金	有( ) 円		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(180,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要 (平成20年8月 9日事業所記入)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.1 歳	最低	79 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	白川病院
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1	利用者本位のケアを目指して、一人一人の尊厳を大切に支援を行っている。
2	事業主が地域との繋がりを「地域からの信頼」をモットーに取り組んでおり、職員も一丸となりまとまっている。
3	食べることに力を入れ、職員は毎日新鮮な食材を買いに行き、地域のお米や野菜を使って、美味しく食べやすい食事づくりに心を込め、利用者は食べることの喜びが表情に表れている。
4	ご近所と繋がりが深く、災害時の協力体制もできており、職員は夜間でも状態に合った避難誘導ができるようグループホームとしての訓練や研修をしている。
5	住宅地の隣接した自然の豊かな地域で、どっしりとした木材を使いゆとりのあるつくりで、思いや気持ちに応じた場所でゆったりと過ごすことができる。体制や職員の対応から安心して最後まで過ごせる場である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で指摘を受けた項目は、同業者との交流を通じた向上であったが、市役所担当者が積極的に取り組んでくれ、市内の同業者を集めて職員間交流や相互見学など実施し、グループホームとしても向上に向けて取り組んでいる。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員に自己評価票を配り、各自で評価を行い、それを基に合同カンファレンスを開き、意見や現状をまとめて評価している。自分で考え話し合うことで、ケアのポイントや今、何が大切であるか気づきの場となっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
②	2ヶ月に1回開催し、民生委員児童委員、自治会、弁護士、行政相談員、地域包括支援センター職員、利用者、家族、事業主(医師)、職員と多くの参加が得られている。内容も理念の説明と理解、事業概要、活動内容、災害時の協力依頼など幅広く話し合っている。行政からアドバイスが出され実践に向け取り組んでいる。また地域から交流の働きかけや意見が出され、地域の中で頼りになるグループホームとなっている。会議を話し合った内容はケアの向上や運営の改善に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連事項:外部7,8)
③	家族は積極的に面会に訪れ、意見や要望を伝えることができ、家族の思いをケアに活かしている。家族の代表が運営推進会議に参加して、思いや意見を出し、外部者と話し合いもできている。弁護士も委員として関わっており、家族の苦情や不安も公平に聞き入れる仕組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
④	グループホームが地域に馴染んでおり、近所付き合いが日常化されている。お寺や近隣の人など多彩な訪問やボランティア訪問があり、地元とは米や野菜など求めて繋がりを持っている。職員は毎日、近くのスーパーに買物に行き、事業所を知ってもらう働きかけをしている。中学生や看護学生を受け入れ体験学習などの交流も行っている。地域としては頼りになるグループホームとして位置付けられている。また、退職後の職員がボランティアとして定期的に来て来て利用者や交流を持っている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設にあたり準備段階で、職員皆で話し合い、住みなれた地域でその人らしい生活の維持を軸に、地域で一人ひとりが安心して楽しい生活ができるよう具体的理念としている。また、生活の質を高めるよう年度ごとの理念も作っている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内の良く見える位置に理念を掲げて共有し、職員は常に理念を基にケアに取り組んでいる。ユニット合同カンファレンスの時も理念について話し合い支援の基本とし、困った時のよりどころとしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
<input type="checkbox"/>	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との結びつきが深く、特にご近所との交流があり、果物や野菜のおすそ分けなど関係ができています。地域のボランティアや保育所の訪問など定着しており、グループホームからも利用者と職員が外に出て行き、積極的に地域と付き合い合う動きがある。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
<input type="checkbox"/>	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を管理者が説明し、職員全員で自己評価を記入して会議を開き、全職員で協議して記入している。職員は記入することでケアのポイントを認識し、実践に活かそうとしている。前年度評価については、職員間で話し合い、市担当者と協力して改善に取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、経過報告、理念の説明、利用者の状況、安全管理、感染予防等、時期に応じた課題などについて、テーマごとに話し合い、地域包括支援センター、市役所からはアドバイス、家族や地域住民、ボランティアの方からは意見や感想とそれぞれの立場から積極的な思い出され、その意見をケアに活かすよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	分らないことや困難なことをその都度相談して、アドバイスや意見、新しい情報など協力を得ている。前年度改善項目についても、市役所が積極的に提案し、地域のグループホームへ働きかけを行って、事業所の向上に活かしている。		
4、理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	近所からの入居者が多いことから、日常的に面会に来ることが多く、面会時に暮らしぶりや変化、健康状態、金銭管理について報告をしている。自宅が近いので散歩のついでに家に立ち寄り、家族と話すこともある。広報紙を通じて毎月、情報を発信している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は面会に行きやすく、職員とよい関係ができていいる。自宅が近い家族とは、散歩の時に立ち寄り、意見や要望を聞き出している。また、意見箱を設置して苦情処理委員会も立ち上げ、家族の意見を反映する仕組みを作っている。家族の代表が運営推進会議に参加して外部者にも意見を伝えることができていいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を大切にして職員の異動は2年間に1人のみである。職員も全員が正規職員であり離職者も無く安心して職務に励んでいる。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画的に研修が実施されている。毎月、法人全体の研修があり、外部研修も順次経験や内容に応じた参加をして、学んだことを日頃の会議で伝達している。法人として資格取得に対して協力的で、職員も意欲的である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設時には、運営者と職員が他のグループホームを見学し、アドバイスを受けている。宅老所・グループホーム大分県連絡会に加入し、研修会や親睦交流会に職員が順次参加している。今年より市役所の呼びかけで市内3箇所のグループホームが交流を行い、職員間の相互ホーム見学や、それぞれの良い点など教え合いサービスの向上に向け取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同法人のデイケアやヘルパーのサービスを受けており、介護支援専門員を始めほとんどの職員と馴染みの関係ができて利用していることが多い。初めての方は家族と本人が何回か訪問し、馴れるまで外泊や、家族の宿泊など柔軟な対応の工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と言葉の掛け合いが家庭的で、職員は利用者からいたわってもらったり、昔の慣わしや調理方法など教わりながら共に過ごしている。利用者は自由に思ったことを言動に表し、心が通い合っているから職員も思っていることを伝えている。職員は利用者の言葉に癒されることが多く支え合っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がどのように暮らしたいかをよく聞き取り把握している。思いが表現できにくい人については、日頃から良く話し合い表情からも読み取っている。また、できること・できなくなったことを確認しながら、職員は本人を主体とした視点で取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一人ひとりの居室の見やすい位置に、分かりやすい言葉で掲示して、毎日の目安としている。本人、家族、職員、医師が意見を出し合って介護計画を作っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングやアセスメントを繰り返し、計画作成者、担当職員が中心となり、毎月ケアカンファレンスを開き、定期的に計画の見直しをしている。本人の状況の変化や要望、家族の意見や希望、職員の情報などにより随時、見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容、実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	帰宅を希望する人に対しては、自宅を訪問して息子や家族と話をし落ち着けるよう支援をしている。また、一人暮らしをしていた方が家の状況を確認したいとの要望には、職員が同行している。自宅の梅やさくらんぼが熟す頃になると、利用者と一緒に収穫をしている。家族が長期宿泊を希望すれば、親子で同室で過ごせるよう見守っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居までに通院していた病院や整形外科、耳鼻咽喉科、皮膚科など自由に受診している。家族が付き添えない時は職員が同行している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の指針を設けて、家族、医師、本人、介護者で話し合い、内容を明確にしている。看取りに関する記録として、看取りの介護同意書(家族)、医師の指示内容、看取りの介護計画書、経過記録、サービス担当者会議、臨終時の記録などそれぞれの立場で具体的に方針が設けられ、職員教育も実施されている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護や接遇マナーについてマニュアルを作成し、職員研修を行っている。運営推進委員のメンバーに弁護士も入りプライバシーなどに配慮している。実践の場においても、職員の声掛けは利用者を尊重した言葉遣いで、トイレ誘導や介助にも配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の一人ひとりのペースや体調の変化に応じて、食事のペースや睡眠時間を合わせている。また、利用者はどう過ごしたいかを職員に伝え、職員はその意向に沿った支援に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が毎日買い物に行った新鮮な季節の食材を使い、楽しんで食事ができるよう皆で取り組んでいる。利用者も準備や片づけなどできることをやり、家族も食事に満足している。職員と家族とのように会話をしているが、同じ物を食べていないので食事の満足感の共有ができていない状況である。	○	利用者と同じ食事を一緒に食べて、同じ量を摂取した中で満足感や、情報をその時の状況による食後の変化を職員も共有することにより、新たな情報収集を行うことを期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴が可能で、入浴を楽しめるよう工夫された支援である。体調や季節の気温変化によっては、随時、清拭やシャワー浴対応も行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意なことや趣味など聞き取り、それらを発揮できるよう支援をしている。草花の世話や洗濯たたみ、掃除や調理の準備、片付けなどできることをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外で日光浴や読書、散歩など屋外活動を行っている。隣接の病院のデイケアに出かけたり、近所へ散歩に行き、ご近所の人と挨拶を交わし、自宅へ立ち寄るなど日常的に支援をしている。また、外食や買い物、観光など毎月希望に沿って出かけるなど楽しく過ごしてしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や居室の鍵を夜間以外は施錠せず、外に頻繁に出ていることの原因や対応を職員で話し合い、出ないようにするのではなく、毎朝のゴミ出しに戸外に出たり、散歩に出かけるなど心の動きに沿った支援を行っている。居室も大きく窓を開けて外を眺めることができ、閉塞感への配慮が見られるなど常にさり気ない見守りを大切にしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署協力での法人全体の訓練に年2回参加し、防火、通報、非難訓練を行っている。グループホーム独自でも機能や状態に応じた避難誘導訓練により利用者に応じた対策を行っている。また地域の協力もお願いして夜間でも協力が可能である。食品の備蓄は法人全体で用意をしているが、グループホーム内でも多少の備蓄が望ましい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が基本的な栄養バランスを基に、利用者の嗜好調査を行い、食べたい物を、美味しく食べられるよう、新鮮な食材で調理している。毎食を写真に残し次回に活かしている。体調や機能に応じた刻み食やとろみ食、柔らかく食べやすい工夫も行っている。水分摂取やカロリーも配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高くどっしりとした木材を使い落ち着いた佇まいで、明るく清潔である。畳やソファでゆっくりと過ごせ、調理が一緒にできるようオープンキッチンで、調理時の音や香りが身近で感じられる家庭的な空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洋風なつくりの中、障子で自然な光を取り入れ、テレビや思い出の小物など馴染みの家具を置き、自分らしい居室を工夫している。家族も泊まれる広さで、本人と家族の気持を大切に、居心地良く暮らせる配慮が見られる。		



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム無量寿
(ユニット名)	山茶花
所在地 (県・市町村名)	臼杵市大字末広 915番地
記入者名 (管理者)	江藤 千代子
記入日	平成 20年 7月 29日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設し2年、住み慣れた地域で一人ひとりが安心して楽しい暮らしができるようにと職員一同介護にあたってきた。人権尊重、自立支援、住み慣れた地域でのその人らしい生活の維持が目標である。今年度の介護理念は入居者の希望や意向等を理解して一人ひとりの生活の質を高める介護をめざすとした。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	介護理念を明示し、見やすいところに掲示して皆で共有している。利用者の思いや希望、意向を理解して、一人ひとりの生活の質を高めるような介護を目指している。合同カンファレンスなどで職員全員で確認し日々の介護において対応に困ったときは理念を拠り所としている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族の皆さんには毎月の無量寿便りの中に理念を明示し配布している。またグループホーム内の分かりやすいところに掲示して面会の方々や見学の方々、来訪された方々に、見ていただいて説明している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所に散歩に出かけるときは必ず挨拶し、お話するように心がけている。庭の草花を見せてもらったり、なるべく近所の方々と交流をもてるように努力している。自分の庭の花や果物などを持ってきてくれる方がいる。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の民生委員、福祉委員の方々が見学やボランティアで歌やハーモニカ演奏などに来てくれる。地元の方から米や野菜、果物などの食材を届けてもらい、毎日の食材にしている。地域の保育園児と季節ごとの楽しい交流がある。その他地域のボランティアの方々が多数来られる。中高生、看護学生の体験学習などの交流もある。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	見学を希望される方々には随時応じている。また認知症でお困りのご家族にはその都度ご相談にのっている。相談の方々にグループホームでの生活の仕方が参考になると思う。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価について各自自己評価を記入し、合同カンファレンスで職員全員で検討した。自分たちで気づいたことや外部評価で学んだことを今後の無量寿の運営や介護の質の向上につなげていきたいと思う。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、家族や地域住民、市行政職員、地域包括支援センターなどの方々に参加していただき、事業所の活動や状況の報告を行い、参加者の方から意見や質問など頂いて、お互いに情報交換を行い、事業の向上に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	いろいろな状況で分らないことがある時は、その都度市の担当の方に相談している。市の担当の方の提案で、市内のグループホーム3施設が話し合いの会合を持ったり、今年の2月～3月に3施設の職員が相互の施設の見学を行うことができたことは、大変勉強になりよかった。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度については、研修会に参加した。利用者に必要なときに、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度などを支援していきたい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者の虐待や拘束について研修会等で学習している。高齢者や認知症の方への接し方や介護については周知徹底している。高齢者への身体はもちろん言葉による拘束、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めていく。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項と契約書など利用者や家族に十分に説明するようにしている。特に料金やリスク、医療体制、重度化したときの対応などよく説明している。利用者や家族に納得して頂き、不安や疑問がないことを確認して、契約の手続きをしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それを運営に反映させている	利用者の要望や意見、希望などは日頃よりよく聴いている。自分で意見を言えない方は、日頃の言葉やしぐさ、態度から理解する。利用者の情報は合同カンファレンスで全員で検討して共有している。意見箱を設置している。嗜好調査を行い、レクリエーションなども利用者の意見を聞き計画、実行している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族に利用者の暮らしぶりやエピソード、健康状態、金銭管理、職員の異動等について報告をしている。また利用者には何か変化があった場合は、こまめに家族に報告をしている。毎月の利用者の状況や行事やレクリエーションなどの様子を、写真なども掲載した無量寿便りを毎月送り、お知らせしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それを運営に反映させている	ご家族には常にこちらから笑顔で声をかけるようにして、気怪に意見、不満、苦情言っていたらできるだけ、話しやすい雰囲気作りを心がけている。ご意見箱を設置している。意見が出されたら施設長や管理者、職員全員で検討して、前向きに運営に反映させていきたい。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者や管理者は、普段から言いやすい雰囲気作りを心がけて、職員の声に耳を傾けるように努めている。カンファレンスやミーティングにおいても職員の意見や提案を聞き業務に反映するようにしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の個別的な暮らし方を支援できるように職員のローテーションを組んでいる。行事やその時々に応じられるように柔軟な勤務体制を心がけている。必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は全員が正職員で離職もなくほとんど同じ職員が介護に当たっている。利用者はいつも馴染みの職員からの介護を受けている。勤務交代の職員にはオリエンテーションを十分行い、利用者で紹介して引継ぎにも最善の努力をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>介護</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、本人と家族の話をよく聴いて、現在の問題点を把握するようにしている。本人やご家族にとって最も必要で可能な支援は何かを相談しながら見極め、改善に向けた支援を提案し、希望に見合ったサービス利用を支援する。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	当病院やデイケアやヘルパーなどの職員と顔見知りでなじみがあった方々も入居されている。初めての方には見学を充分してもらい、職員や他の利用者や徐々に馴染めるよう家族等と連絡を密にし相談しながらグループホームの生活に少しずつ慣れて自分の居場所ができて安心して利用してもらえるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。人生の大先輩である利用者からは教えられる事が多く、また利用者の優しさに癒される事も多くあり、お互いに協同して生活している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には気軽にきて頂いており、利用者の思いや日頃の暮らしの様子などをお知らせしている。家族と職員が、利用者と一緒に支えていく関係を大切にしている。また家族の方にも職員がどのような思いで利用者の支援をしているかをお伝えしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族にはいつでも気軽に面会していただいている。また外出等を一緒にしてもらうこともある。職員は家族と利用者のより良い関係を継続できるように配慮し、家族と利用者の掛け橋になるように心がけて支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後もこれまでの馴染みの理髪店に行ったり、定期的に娘さんと外出して墓参りや仕事場を見に行かれたりされている。ご近所や知人の方の訪問時はゆっくり過ごしていただけるように、職員も心から歓迎している。利用者が今後も人や場所とのご縁が途切れないように支援に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は利用者同士の関係の把握に努め、よい雰囲気でお互いがかかわれるように、孤立せずお互いが支え合えるように、常に調整役をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	山茶花では今のところ他の事業者に行かれた方や関係が断ち切れた方はいませんが、今後も、関係を断ち切らないつきあいを大切にしていってほしい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望や好み、どのように暮らしたいかなどを、よく聴いて理解に努めている。また日ごろの関わりの中からも、言葉や表情などから、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。家族の方からもお聞きしたり、ご本人のいろいろな面から、本人本位に検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、関係者などから、いままでの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の情報を得て一人ひとりの把握に努めている。本人にも生活のいろいろな場面で思い出や昔の話を聞いて把握している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の一人ひとりの一日の過ごし方、どのように思いながら生活しているかを観察し把握するようにしている。心身状態、できることなど本人の持っている力等をアセスメントして総合的に把握するように努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族に、思いや要望などを十分に聞くようにしている。担当職員や計画作成者が中心になり職員全員で本人がより良く暮らすためのケアについて、アセスメントや意見交換、モニタリングを行っている。本人、家族、職員、主治医など必要な方々から、それぞれの意見を聞いて反映し、本人本位の介護計画の作成に努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画作成者、担当職員中心にモニタリングし介護計画内容を検討し毎月のケアカンファレンス検討している。期間に応じて見直しを行うとともに、その他に変化があった時にも、本人の状況や要望、家族の希望・意見、職員の情報など取り入れ、介護計画の見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとの個別ファイルに、バイタルサイン、食事量、排泄状況、日々の様子や本人の言葉、エピソード、ケアの実践・結果、気づきなどを個別記録している。その他日誌や連絡申し送り簿など記入し、職員全員で情報を共有して実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院併設で24時間の医療連携がとれる。デイケアでのリハビリやレクに参加できる。病院の陶芸教室で講師指導のもと陶芸を楽しめる。花見や外食などの外出行事は法人の車や運転手さんの協力があり、他の職員の方々も付きそいなど手伝がある。法人のデイケアや病院と協力して合同で夏祭りや秋祭りなどを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の方々や地域の方々、ご家族の方々などのボランティアに沢山来ていただいている。歌や演奏、踊りなどで楽しく交流してくれている。地域の保育園児との交流訪問も好評で継続して行っている。地域の中学生や高校生の体験学習なども良い交流である。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地元美容師さんが毎週病院に訪問してくれるので希望される方は希望時に利用している。地元の福祉用具業者が福祉用具の相談や販売、配達、修理などをしてくれる。以前の担当のケアマネジャーが訪問し本人の相談や話を聴いてくれる。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進委員会に地域包括支援センターの職員の方に参加していただき、情報交換や情報の共有をしている。ご意見を頂き困難事例の検討など協働して個別支援、本人本位の支援をしていきたい。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医に受診している。通院付き添いは家族の方がされていますが、場合により職員が対応できる。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	施設長が認知症の専門医で、隣接する併設病院にも専門医がいるのでいつも助言が受けられ、必要に応じて相談、受診ができる。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が常勤の配置されており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援が行える。看護職員がいないときは、介護職員が隣接している病院に連携を取れるようになっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には安心して療養できるように、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者に情報提供や連携をとりついている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の場合は本人や家族の希望を十分に聴き、主治医と話し合いを持ってもらい、本人の希望や意向に添うように検討して、方針を皆で共有していく。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居時にグループホーム無量寿で「できることやできないこと」や「看取りの指針」を説明している。利用者が安心して暮らせるように、今後重度化や終末期については、その都度、本人の気持ちや家族の希望に添っていけるように、話し合いをもちながら対応して行く。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入院などされた場合は医療関係者に今までの本人の状況や生活習慣や嗜好など情報提供してこれまでの暮らしぶりがなるべく継続出来、混乱しないように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は接遇の研修を受けており、接遇マニュアルも勉強している。利用者の尊厳と権利を守るために、職員全員プライバシーに配慮しさりげない言葉かけをして、記録なども注意している。個人情報保護についても職員研修会を持ち、マニュアルも整備しており、職員全員が配慮している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員は利用者一人ひとりに合わせた声掛けを心がけ、本人が自分の思いや希望を表せるように努力している。出来るだけ本人が希望や意思決定できるように配慮している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切に、利用者のペースで日々の生活が行えるように留意している。入浴や散歩などまた自分でしたい家事の事などなるべく利用者一人ひとりの希望に添うようにしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者がそれぞれ自分の好みのおしゃれや身だしなみができるように配慮している。なじみの理髪店に散髪に行く方もいる。髪の長い方には毎朝希望される髪形に結髪介助している。着替えやみだしなみが自分で出来ない方には、職員と一緒に本人の好みに合わせて手伝っている。隣接の病院に訪問美容師が来て希望される方は利用できる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備やや後片付けは利用者にしたことやできる事はしてもらっている。好きな方が多くやりがいや楽しみがあるようです。野菜きりや皮むき、豆のすじとり、盛り付け、配膳、下膳、台拭き等職員と一緒にしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好きな食べ物など嗜好調査は入居時の書類にもあり、また利用後もたびたび食べたいものなどを一人ひとり聞いたり、嗜好調査をして毎日の献立やおやつなどのメニューに生かしている。お酒も行事食のときにワインやビールなど希望者は飲んでいる。タバコを吸われる方はおられない。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣に合わせて排泄がスムーズにできるよう心がけている。必要に応じてパットや紙パンツを使い、なるべくトイレやポータブルトイレに行き、自立を目指して排泄が出来るように支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者一人ひとりの希望に添うように本人のペースで気持ちよく入れるように個別に援助している。介助も個人応じて行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼間散歩や体操、運動、レクなどの活動の時間を多くとるようにしている。夕方からは落ち着いて過ごせるように生活のリズムを整えるて安眠できるように配慮している。利用者一人ひとりが、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう個別に援助している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が得意でしたいことはしてもらい、役割を達成した充実感などを感じてもらっている。できる事したい事を毎月担当職員がそれぞれ利用者と一緒に捜してアセスメントしている。食事作りや掃除、洗濯などの家事、草花の世話、行事の計画など日々の暮らしの役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者によっては家族の了解のもと少額のお金を持っている。買い物レクでは職員が付き添い、おやつや身の回りのものを本人が選び買物を支援している。小遣い帳を職員と一緒につけている方もいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	デイケアにリハビリ体操に出かけたり、毎朝ゴミ捨てなど散歩がてら職員と一緒に行く方も居る。日中は活動を多く、ストレス発散のために日常的に日光浴をしたり近所に散歩に出かけている。玄関前に出て本の読み聞かせやみんなで歌を歌ったり、ゲームで遊んだり日光浴をかねて楽しんでいる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	出かけて行きたいところなどを利用者に関くようにして外出の計画を立てている。季節を感じられるように花見や紅葉狩りなど季節ごとに利用者の希望に応じてドライブなどの外出を計画し出かけている。その他に希望の多い買い物レクや外食レクに出かけている。また家族の方々とも外出や外食、買い物などに出かけておられる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リビングに公衆電話が設置してあり、自由に電話をできるようになっている。自分ひとりで電話をかけられない方にはかけたり引き継いだりのお手伝いをしている。家族や知人から手紙を受け取る時は、とても喜んでおられる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人の方が気楽に訪問していただけるような雰囲気作りを心がけている。必ず職員のほうから笑顔で挨拶や労いの言葉をかけるようにしている。最近の行事などの写真を見てもらったり、利用者の近況をお知らせしたりしている。湯茶を出し、ゆっくり話してもらえるようにしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人権尊重、権利擁護の意識を持ち「身体拘束を絶対にしない」方針で介護している。「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」は職員の目に付くところに掲示している。身体拘束は全くない。今後も拘束をしないケアを行う。日中玄関はいつも開放されている。(ダメ・待つて)など言葉による拘束にも注意している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけていない。山茶花ではたびたび外に出られる方は今はいないが、帰宅願望がある方は何人か居られるので、常にさりげなく観察、見守りをしている。日中鍵をかけない生活が開業以来継続できている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は台所仕事や記録中も、さりげなく、利用者全員を見守り状況を把握し安全に配慮している。夜勤ではまめに巡視を行い利用者全員の状況を把握している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	家庭のように保管しているが、鋏など利用者の危ないと思われる方から見えなように保管している。洗剤などは利用者から見えにくい手が届きにくい高いところにおいて安全に配慮している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者一人ひとりの転倒転落対策を立てて安全対策をとっている。職員はインシデント、アクシデントのレポートを提出して毎月カンファレンスで職員全員で情報を共有し予防対策を検討して事故防止に取り組んでいる。誤薬、離院についても対策を立て事故防止に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急時の連絡体制、応急手当など緊急時、夜間緊急時の対策があり、職員も緊急時の対応についての理解をしている。すぐ近くの同じ敷地内に併設の病院があるので、緊急時は24時間速やかに医師や看護婦が対応できる。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、法人が行う年2回の防火訓練に参加して消火器の使用訓練や通報訓練、避難訓練など行っている。その他にもグループホームで避難訓練をしている。	○	利用者が、迅速に安全に避難ができるように、年2回法人が行う防火訓練以外にグループホーム独自で行う避難誘導訓練を増やして行っていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりに起こり得るリスクについては毎月のケアカンファレンスで話し合い、防止策を検討していますが、家族等にもその方のリスクを充分説明して理解してもらおう。また本人の安全面で協力をお願いする場合がある。利用者の生活のパターンを把握して、生活抑制や鍵などの抑圧的な対策は取らず、抑圧感のない暮らしができる対応策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い、記録している。職員は利用者一人ひとりの普段の様子をよく知っており、体調管理に留意しており、少しでも変化や異常があれば管理者に相談し医療受診につなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルがあり職員は薬の薬効や副作用などは把握しており、利用者がきちんと服薬できているか確認している。また利用者の状態変化があるときはくわしく記録して看護職員や医師と連携を取れるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は便秘の弊害を理解しており、便秘予防に努めている。繊維質の多い食事内容や水分摂取、散歩や体操など活動を推奨して、自然排便ができるように取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	職員は口腔ケアの重要性を研修会などで学んでいる。食後の歯磨きや入れ歯の洗浄など利用者には声をかけ、自分のできない方にはお手伝いをしている。現在夕食後は全員口腔ケアができているが、毎食後は充分ケアができていない。	○	利用者の皆さん全員が毎食後に口腔ケアができるように、職員は重要性を理解して口腔ケアに取り組んでいく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好調査を行い、嗜好を知り、美味しく食べてもらえるように献立に取り入れる。摂取量は記録して健康管理に活かす。食事内容は毎食記録し写真など残している。水分摂取も一日の目標を決めて摂取している。食事の形態は利用者に合わせてキザミやとろみ、ミキサーなど誤嚥せず安全に嚥下できるようにしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎月のケアカンファレンスで感染予防について検討しています。マニュアルがあり予防・対策に努めている。インフルエンザは利用者や職員は毎年予防接種し、ノロウイルスに対しても手洗いの徹底、ペーパータオル、食品管理など予防対策を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日買い物を行い、新鮮な生鮮食材を調理している。冷蔵庫・冷凍庫内に残りものがないように整理している。まな板や包丁、食器類は毎食後に食器滅菌保管庫で清潔を保持している。清掃やアルコール噴霧等で台所、水周りの清潔保持に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周囲や玄関先は庭木が多く植えられ、花や木の実で季節感が感じられる。可愛い草花もあり心が和む。玄関先や裏庭にはベンチが置かれ利用者が日光浴しながらおしゃべりやゲームなどするのに最適である。玄関前で焼肉大会や花火も楽しめる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、明るく清潔にしている。台所から調理の音や味噌汁や煮炊きする美味しそうな匂いがしている。生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるように努力している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールや庭などに長椅子やソファ、ベンチを置き、一人や二、三人で居心地よく過ごせる場所があり、くつろぐことができます。畳コーナーに腰掛けて話したり畳に上がって寝転んだり一休みされている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室は、本人が好きなものやなじみの家具や写真、飾り物など自由に持ってきて置いたり飾ったりしている。利用者一人ひとり自分にとって居心地のよい部屋になっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	職員は利用者が気持ち良く過ごせるように、換気やエアコンの温度調節をこまめに配慮している。各部屋には個別に換気扇とエアコンがあり各人が気持ち良く過ごせるように、自分で調節ができていない方にはその方にとって快適なように職員がこまめに調節している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	道路から玄関、玄関から建物内部全体がバリアフリーになっている。要所要所には手すりが設置してあり安全に移動ができるようにしている。部屋の中も利用者に合わせて手すりや滑り止めマットなど安全に自立して動けるように工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分の部屋やトイレの場所がわからない方には、本人が不安にならないように、職員でどのようにしたらわかってもらえるか話し合い、分りやすく表示したり、本人の反応を見ながら環境づくりに努力している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前や庭、裏庭にベンチを置いて、利用者がゆっくり日向ぼっこや夕涼みができるようにしている。玄関前は屋根も広く雨や強い日差しも避けられ気持ちのよい場所に鳴っている。車椅子の方もゆっくりできる。畑スペースには野菜を植えている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほほ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

昨年9月に開設して2年目です。山茶花の皆様は、居間でみんなで過ごされることが多く、お互いによくお話され、歌を歌ったり、貼り絵などの共同作業が得意です。職員とも気さくにお話して、なごやかな雰囲気です。今年の介護理念は「皆様の思いや希望、意向を理解して、お一人おひとりの生活の質を高めるような介護をめざします」です。職員は利用者の人権を尊重した本人主体のケア、自立支援、個別ケア、チームで支えるケアが実践できるように介護の向上に日々努力しています。安らぎや心地よさ、なじみの場、居場所作り、プライバシーの確保、安全への配慮などの環境作りに力を入れて、「お一人おひとりを大切に、楽しく生き生きと、安心した暮らしができるようお手伝いします」を実現をめざしています。健康にも注意してできるだけ自立して、これからも元気に過ごしていただきたいと願っています。新鮮で美味しい食事をモットーに、毎日買い物をして食材選びや献立作り、調理にと力を入れています。おかげさまで食事は利用者に好評で、食事が大きな楽しみになっています。健康管理・疾病管理の面では看護師の配置があり母体の病院が近く、いざというときに迅速に対応ができます。活力のある暮らしを目指し、散歩や筋力アップの体操やストレッチ、嚥下体操など毎日しています。利用者一人ひとりのできること、したいことを本人と職員で探しながら、ご本人にグループホームの生活の中で役割意識ややりがいを感じてもらえるよう心がけています。買い物レクや花見、紅葉狩り、季節ごとの行事、誕生会なども充実して皆さん楽しく過ごされています。住み慣れた地域の方々との交流も大切にしており、ボランティア・近隣の保育園や民生委員の方々などが遊びに来てくださり、近くのお寺の住職さんが年に数回法話に来てくださるので、利用者様や職員は楽しみにしています。

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム無量寿
(ユニット名)	故郷
所在地 (県・市町村名)	臼杵市大字末広 915番地
記入者名 (管理者)	江藤 千代子
記入日	平成 20年 7月 26日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設し2年。住み慣れた地域で一人ひとりが安心して楽しい暮らしができるようにとの介護理念で職員一同介護にあたってきた。人権尊重、自立支援、住み慣れた地域でのその人らしい生活の維持を介護目標に、また入居者の希望や意向等を理解して一人ひとりの生活の質を高める介護をめざすことを、今年の介護理念に掲げた。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	介護理念を明示し、見やすいところに掲示して皆で共有している。利用者の思いや希望、意向を理解して、一人ひとりの生活の質を高めるような介護を目指している。合同カンファレンスなどで職員全員で確認し日々の介護における拠り所としている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族の皆さんには毎月の無量寿便りの中に理念を明示し配布している。またグループホーム内の分かりやすいところに掲示して面会の方々や見学の方々、来訪された方々に、見ていただいて説明している。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所に散歩に出かけるときは必ず挨拶し、お話するように心がけている。庭の草花を見せてもらったり、なるべく近所の方々と交流をもてるように努力している。手作りの菓子やお花などを持ってきてくれ方もいる。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の民生委員、福祉委員の方々が見学やボランティアで歌やハーモニカ演奏などに来てくれる。地元の方から米や野菜、果物などの食材を届けてもらい、毎日の食材にしている。地域の保育園児と季節ごとの楽しい交流がある。その他地域のボランティアの方々が多数来られる。中高生、看護学生の体験学習などの交流もある。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	見学を希望される方々には随時応じている。また認知症でお困りのご家族にはその都度ご相談にのっている。相談の方々にグループホームでの生活の仕方が参考になると思う。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価について各自自己評価を記入し、合同カンファレンスで職員全員で検討した。今後介護の質の向上につなげていきたいと思う。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、家族や地域住民、市行政職員、地域包括支援センターなどの方々に参加していただき、事業所の活動や状況の報告を行い、参加者の方から意見や質問など頂いて、お互いに情報交換を行い、事業の向上に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	いろいろな状況で分らないことがある時は、その都度市の担当の方に相談している。市の担当の方の提案で、市内のグループホーム3施設が話し合いの会合を持ったり、今年の3月に3施設の職員が相互の施設の見学を行うことができたことは、大変勉強になりよかった。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度については、研修会に参加した。利用者に必要なときに、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度などを支援していきたい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者の虐待や拘束について研修会等で学習している。高齢者や認知症の方への接し方や介護については周知徹底している。高齢者への身体はもちろん言葉による拘束、虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めていく。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項と契約書など利用者や家族に十分に説明するようにしている。特に料金やリスク、医療体制、重度化したときの対応などよく説明している。利用者や家族に納得して頂き、不安や疑問がないことを確認して、契約の手続きをしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望や意見、希望などは日頃よりよく聴いており、担当スタッフが毎月まとめている。自分で意見を言えない利用者については、言葉やしぐさ、態度から思いや不安、好き嫌いなどから理解している。利用者の情報は合同カンファレンスで職員全員で検討して共有している。意見箱を設置している。嗜好調査を行い、レクリエーションなども利用者の意見を聞いて計画、実行している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族に利用者の暮らしぶりやエピソード、健康状態、金銭管理、職員の異動等について報告をしている。また利用者には何か変化があった場合は、こまめに家族に報告をしている。毎月の利用者の状況や行事やレクリエーションなどの様子を、写真なども掲載した無量寿便りを毎月送り、お知らせしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には常にこちらから笑顔で声をかけるようにして、気軽に意見、不満、苦情言っていただけるように、話しやすい雰囲気作りを心がけている。ご意見箱を設置している。意見が出されたら施設長や管理者、職員全員で検討して、前向きに運営に反映させていきたい。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者や管理者は、普段から言いやすい雰囲気作りを心がけて、職員の声に耳を傾けるように努めている。カンファレンスやミーティングにおいても職員の意見や提案を聞き業務に反映するようにしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の個別的な暮らし方を支援できるように職員のローテーションを組んでいる。行事やその時々に応じられるように柔軟な勤務体制を心がけている。必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所からほとんど同じ職員が介護に当っており、利用者は馴染みの職員の介護を受けている。勤務交代の職員にはオリエンテーションを十分行い、利用者で紹介して引継ぎにも最善の努力をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>介護</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修会や毎月ある院内研修会に参加してる。研修内容を全職員に伝達報告している。外部研修も認知症介護等の研修に毎年数名順次に参加させて職員育成を行っている。研修で学んだことを日頃の介護の実践にいかすようにしている。また職員は働きながら介護福祉士などの資格が得ており、事業者は協力的である。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設時に、運営者や全職員で他のグループホームを見学し、いろいろとアドバイスを頂いた。市の呼びかけで今年の3月に市内3か所のグループホーム相互見学が実現し、お互いに交流でき他施設の良い点などを見ることで大変勉強になった。またグループホーム大分連絡会(小規模ほーむの井戸端会議)に加入しており研修会や4月にはミニバレーボール大会に参加し職員間で交流できた。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は管理者や職員とよく話をして、職場の現状に理解がある。慰労会や職員旅行など親睦やストレス解消の取り組みをしている。休憩場所が確保されている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、職場をしばしば訪れ、利用者と一緒に過ごし、管理者や日頃の職員の仕事ぶりや勤務状況を把握している。職員が向上心を持って働けるように事業者内外の研修会に参加させたり、職員の資格取得に向けて支援をしている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に見えたときには、本人が話されることをじっくり傾聴して、本人が困っていること、不安なこと、求めていることなど現状の問題を把握する。本人が話してくれたことを、受けとめて、ともに考えていくことで、安心感や信頼感を築いていく。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の話を傾聴する。困っていることや不安なこと、求めていること等今までの経緯や現在の状況について、よく聴きいて、把握し受けとめていく。事業所としてどのように対応できるか話し合う。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、本人と家族の話をよく聴いて、現在の問題点を把握するようにしている。本人やご家族にとって最も必要で可能な支援は何かを相談しながら見極め、改善に向けた支援を提案し、希望に見合ったサービス利用を支援する。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬよう徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	当病院やデイケアやヘルパーなどの職員と顔見知りになじみがあった方々も入居されている。初めての方には見学を充分してもらい、職員や他の利用者や徐々に馴染めるよう家族等と連絡を密にし相談しながらグループホームの生活に少しずつ慣れて自分の居場所ができて安心して利用してもらえるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。人生の大先輩である利用者からは教えられる事が多く、また利用者の優しさに癒される事も多くあり、お互いに協同して生活している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には気軽にきて頂いており、利用者の思いや日頃の暮らしの様子などをお知らせしている。家族と職員が、利用者と一緒に支えていく関係を大切にしている。また家族の方にも職員がどのような思いで利用者の支援をしているかをお伝えしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族にはいつでも気軽に面会していただいている。また外出等を一緒にしてもらうこともある。職員は家族と利用者のより良い関係を継続できるように配慮し、家族と利用者の掛け橋になるように心がけて支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後もこれまでの馴染みの理髪店に行ったり、定期的に娘さんと外出して墓参りや仕事場を見に行かれたりされている。ご近所や知人の方の訪問時はゆっくり過ごしていただけるように、職員も心から歓迎している。利用者が今後も人や場所とのご縁が途切れないように支援に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関わりがうまくいくように、職員は利用者の関係の把握に努め、一人ひとりが孤立せずお互いが支え合えるように、常に調整役をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	故郷では今のところ他の事業者に行かれた方や関係が断ち切れた方はいませんが、今後も、関係を断ち切らないつきあいを大切にしていってきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望や好み、どのように暮らしたいかななどを、よく聴いて理解に努めている。また日ごろの関わりの中からも、言葉や表情などから、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。家族の方からもお聞きしたり、ご本人のいろいろな面から、本人本位に検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、関係者などから、いままでの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の情報を得て一人ひとりの把握に努めている。本人にも生活のいろいろな場面で思い出や昔の話を聞いて把握している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の一人ひとりの一日の過ごし方、どのように思いながら生活しているかを観察し把握するようにしている。心身状態、できることなど本人の持っている力等をアセスメントして総合的に把握するように努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には日頃から、思いや要望などを聞くようにしている。担当職員や計画作成者が中心になり職員全員で本人がより良く暮らすためのケアについて、アセスメントや意見交換、モニタリングを行っている。本人、家族、職員、主治医など必要な方々から、それぞれの意見を聞いて反映し、本人本位の介護計画の作成に努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画作成者、担当職員中心にモニタリングし介護計画内容を検討し毎月のケアカンファレンス検討している。期間に応じて見直しを行うとともに、その他に変化があった時にも、本人の状況や要望、家族の希望・意見、職員の情報など取り入れ、介護計画の見直しを行っている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>		
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は接遇の研修を受けており、接遇マニュアルも勉強している。利用者の尊厳と権利を守るために、職員全員プライバシーに配慮しさりげない言葉がけをして、記録なども注意している。個人情報保護についても職員研修会を持ち、マニュアルも整備しており、職員全員が配慮している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員は利用者一人ひとりに合わせた声掛けを心がけ、本人が自分の思いや希望を表せるように努力している。出来るだけ本人が希望や意思決定できるように配慮している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切に、利用者のペースで日々の生活が行えるように留意している。入浴や散歩などまた自分でしたい家事の事などなるべく利用者一人ひとりの希望に添うようにしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者がそれぞれ自分の好みのおしゃれや身だしなみができるように配慮している。なじみの理髪店に散髪に行く方もいる。髪の長い方には毎朝希望される髪形に結髪介助している。着替えやみだしなみが自分で出来ない方には、職員と一緒に本人の好みに合わせて手伝っている。隣接の病院に訪問美容師が来て希望される方は利用できる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは利用者にしたことやできる事はしてもらっている。好きな方が多くやりがいや楽しみがあるようです。野菜きりや皮むき、豆のすじとり、盛り付け、配膳、下膳、台拭き等職員と一緒にしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好きな食べ物など嗜好調査は入居時の書類にもあり、また利用後もたびたび食べたいものなどを一人ひとり聞いたり、嗜好調査をして毎日の献立やおやつなどのメニューに生かしている。お酒も行事食のときにワインやビールなど希望者は飲んでいる。タバコを吸われる方はおられない。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣に合わせて排泄がスムーズにできるよう心がけている。必要に応じてパットや紙パンツを使い、なるべくトイレやポータブルトイレに行き、自立を目指して排泄が出来るように支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者一人ひとりの希望に添うように本人のペースで気持ちよく入れるように個別に援助している。介助も個人応じて行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼間散歩や体操、運動、レクなどの活動の時間を多くとるようにしている。夕方からは落ち着いて過ごせるように生活のリズムを整えて安眠できるように配慮している。利用者一人ひとりが、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう個別に援助している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が得意でほしいことはしてもらい、役割を達成した充実感などを感じてもらっている。できる事したい事を毎月担当職員がそれぞれ利用者と一緒に捜してアセスメントしている。食事作りや掃除、洗濯などの家事、草花の世話、行事の計画など日々の暮らしの役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者によっては家族の了解のもと少額のお金を持っている。買い物レクでは職員が付き添い、おやつや身の回りのものを本人が選び買い物を支援している。小遣い帳を職員と一緒につけている方もいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関前を掃き掃除したり、草取りなどが好きで毎日してくれる方が居る。妻が長期に入院しているので週3回ぐらいお見舞いに行く方も居る。季節を感じられるように、ストレス発散のためにも日常的に日光浴をしたり近所に散歩に出かけている。玄関前に出て本の読み聞かせや歌を歌ったり、ゲームで遊んだり日光浴などで楽しんでいる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	出かけて行きたいところなどを利用者聞くようにして外出の計画を立てている。季節を感じられるように花見や紅葉狩りなど季節ごとに利用者の希望に応じてドライブなどの外出を計画し出かけている。その他に希望の多い買い物レクや外食レクに出かけている。また家族の方々とも外出や外食、買い物などに出かけておられる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リビングに公衆電話が設置してあり、自由に電話をできるようになっている。自分ひとりで電話をかけられない方にはかけたり引き継いだりのお手伝いをしている。家族や知人から手紙を受け取る時は、とても喜んでおられる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人の方が気楽に訪問していただけるような雰囲気作りを心がけている。必ず職員のほうから笑顔で挨拶や労いの言葉をかけるようにしている。最近の行事などの写真を見てもらったり、利用者の近況をお知らせしたりしている。湯茶を出し、ゆっくり話してもらえるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は人権尊重、権利擁護の意識を持ち「身体拘束を絶対にしない」方針で介護して。「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」は職員の目に付くところに掲示している。身体拘束は全くない。今後も拘束をしないケアを行う。日中玄関はいつも開放されている。(ダメ・待つ)など言葉による拘束にも注意している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけていない。たびたび外に出られる方がいるので、常にさりげなく観察、見守りをしている。日中鍵をかけない生活が開設以来継続できている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は台所仕事や記録中もさりげなく、利用者全員を見守り状況を把握し安全に配慮している。夜勤ではまめに巡視を行い利用者全員の状況を把握している。職員の部屋にはモニターがついていて死角になる見えにくい廊下等の安全が確認できる。24時間利用者の安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	家庭のように保管しているが、欠など利用者の危ないと思われる方から見えにくいように保管している。洗剤などは利用者から見えにくい手が届きにくい高いところにおいて安全に配慮している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者一人ひとりの転倒転落対策を立てて安全対策をとっている。職員はインシデント、アクシデントのレポートを提出して毎月カンファレンスで職員全員で情報を共有し予防対策を検討して事故防止に取り組んでいる。誤薬、離院についても対策を立て事故防止に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急時の連絡体制、応急手当など緊急時、夜間緊急時の対策があり、職員も緊急時の対応についての理解をしている。すぐ近くの同じ敷地内に併設の病院があるので、緊急時は24時間速やかに医師や看護婦が対応できる。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、法人が行う年2回の防火訓練に参加して消火器の使用訓練や通報訓練、避難訓練など行っている。	○	利用者が、迅速に安全に避難ができるように、消防署の協力を得て、法人が行う年2回の防火訓練以外にもグループホーム独自で避難誘導訓練を行っていきます。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人ひとりに起こり得るリスクについては毎月のケアカンファレンスで話し合い、防止策を検討していますが、家族等にもその方のリスクを充分説明して理解してもらおう。また本人の安全面で協力をお願いする場合がある。利用者の生活のパターンを把握して、生活抑制や錠などの抑圧的な対策は取らず、抑圧感のない暮らしができる対応策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い、記録している。職員は利用者一人ひとりの普段の様子をよく知っており、体調管理に留意しており、少しでも変化や異常があれば管理者に相談し医療受診につなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルがあり職員は薬の薬効や副作用などは把握しており、利用者がきちんと服薬できているか確認している。また利用者の状態変化があるときはくわしく記録して看護職員や医師と連携を取れるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は便秘の弊害を理解しており、便秘予防に努めている。繊維質の多い食事内容や水分摂取、散歩や体操など活動を推奨して、自然排便ができるよう取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	職員は口腔ケアの重要性を研修会などで学んでいる。食後の歯磨きや入れ歯の洗浄など利用者に声をかけ、自分できない方にはお手伝いをしている。	○	口腔ケアの重要性を利用者の皆さんと職員が理解して、全員が毎食後に口腔ケアができるように、口腔ケアに取り組んでいく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好調査を行い、個別に嗜好を知り、できるだけ皆様に美味しく食べてもらえるようにしている。摂取量は記録し健康管理に活かす。食事内容も記録して写真なども撮っている。水分摂取も充分気をつけている。食事の形態は利用者の状況に合わせてキザミやとろみ、ミキサーなど誤嚥せず安全に嚥下できるようにしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎月のケアカンファレンスで感染予防について検討しています。マニュアルがあり予防・対策に努めている。インフルエンザは利用者や職員は毎年予防接種し、ノロウイルスに対しても手洗いの徹底、ペーパータオル、食品管理など予防対策を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日買い物を行い、新鮮な生鮮食材を調理している。冷蔵庫・冷凍庫内に残りものがないように整理している。まな板や包丁、食器類は毎食後に食器滅菌保管庫で清潔を保持している。清掃やアルコール噴霧等で台所、水周りの清潔保持に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周囲や玄関先は庭木が多く植えられ、花や木の実で季節感が感じられる。可愛い草花もあり心が和む。玄関先や裏庭にはベンチが置かれ利用者が日光浴しながらおしゃべりやゲームなどするのに最適である。玄関前で焼肉大会や花火も楽しめる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、明るく清潔にしている。台所から調理の音や味噌汁や煮炊きする美味しそうな匂いがしている。生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるように努力している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールや庭などに長椅子やソファ、ベンチを置き、一人や二、三人で居心地よく過ごせる場所があり、くつろぐことができます。畳コーナーに腰掛けて話したり畳に上がって寝転んだり一休みされている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		



V. サービスの成果に関する項目		
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほほ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

昨年8月に開設し2年目となり、今年の介護理念は「皆様の思いや希望、意向を理解して、お一人おひとりの生活の質を高めるような介護をめざします」としました。利用者様一人ひとりの人権を尊重した本人主体のケア、自立支援、個別ケア、チームで支えるケアが実践できるように日々介護の向上を目指しています。故郷の皆様は個性的で自分の部屋でゆっくり過ごしたい方も多ようです。また隣のユニットと合同のゲーム大会や運動会、ボール遊びでは一致団結してチームワークが良いです。一人ひとりの個性を大切に、安らぎや心地よさ、なじみの場、居場所作り、プライバシーの確保、安全への配慮などの環境作りを引き続きしていきたい。「お一人おひとりを大切に、楽しく生き生きと、安心した暮らしができるようにお手伝いします」を旨に職員一同努力しています。健康で、できるだけ自立して、元気に過ごしていただきたいと思っています。無量寿の自慢は新鮮で美味しい食事です。毎日新鮮な食材を買い物し、季節にあった献立作り、美味しく調理にと、力を入れています。食事は利用者から好評で、毎日の大きな楽しみになっています。また健康面でも看護師の配置があり母体の病院が近く、いざというときに迅速に対応ができます。日頃の散歩や筋力アップの体操やストレッチ、嚥下体操なども毎日しています。利用者一人ひとりのできること、したいことを本人と職員で探しながら、ご本人に役割ややりがいを感じて活気を持ってもらえるように配慮しています。住み慣れた地域で、近隣の保育園や民生委員などのボランティアも多く、近くのお寺の住職さんがたびたび法話に訪問して下さいます。買い物レクや花見、紅葉狩り、季節ごとの行事、誕生会、ゲームやミニ運動会など毎月の色々な楽しみがあります。利用者様や職員も毎日楽しく過ごしています。